

を実施した。

3 高等学校教育関係

- (1) 学習指導要領改訂に基づく教育課程が実施されたことから、高等学校の教育課程の実施に伴う指導上の諸問題を研究協議し、その解明を図り、教職員の指導力の向上に資する目的を持つ「教育課程運営改善講習会」を県内4地区で開催した。
- (2) 40人学級が促進され、その着手率も50%を越え、平成8年度の完全実施に向け、着々と準備が進められた。
- (3) 高等学校の進学推進モデル校として新たに4校を指定して合計22校とし、高等学校生徒の学力向上と大学進学等への進路希望実現を推進する「学力向上ステップアッププラン事業」の一層の充実を努めた。
- (4) 県立高等学校の施設整備事業関係では、福島西女子高等学校他、延べ33校の校舎・体育館を大規模改造事業（33億4,841万9千円）で整備し、須賀川女子高等学校・郡山高等学校を校舎増改築事業（6億1,311万4千円）で整備した。また、産業教育振興法に基づく施設の整備として、福島高等学校他3校の家庭科総合実習室（5億2,652万5千円）を整備するとともに、郡山北工業高等学校に環境システムの実習棟（4億1,763万3千円）を整備した。

4 養護教育関係

- (1) 「県立あぶくま養護学校」を新設し、就学の場の拡充を図った。
- (2) 障害のある児童生徒が、盲・聾・養護学校の公開や共同活動等を通じ、健常児と親しみをもってふれあい、社会の一員としていきいきと地域の中で生活できるよう支援する「いきいきふれあいフェスティバル事業」を実施した。
- (3) 軽度の心身障害児を担当している小・中学校の通常の学級の教員を対象として、心身障害児に関する基礎的知識、援助の方法等についての資質を高める事業として「軽度心身障害児指導法セミナー」を実施した。
- (4) 平成5年度から制度化された「通級による指導」の課題を明らかにし、具体的な就学手続きや指導方法について研究を深めるため「ふれあい通級スタディプラン」を実施した。
- (5) 盲・聾・養護学校教育の充実を図るため「養護教育改善対策会議」において、小・中・高等部の一貫した指導について研究を行った。
- (6) 特殊学校の施設整備事業として前年度に引き続き、あぶくま養護学校の校舎の整備（9億5,465万1千円）を図った。

5 文化関係

- (1) 県立美術館及び県立博物館では、学校週5日制対応事業の一環として、小・中学生を対象に毎月第2土曜日の普通観覧料を全額免除した。
- (2) 天然記念物の将来的な保護と活用について検討するため、「赤井谷地沼野植物群落」及び「尾瀬」についての調査研究事業に取り組んだ。
- (3) 県民の教育、芸術及び文化の振興を図るため、美術作品及び博物館資料の整理・収集と調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を努めるとともに、教育普及のた

めの各種事業を行い、本県美術振興の中心施設としての県立美術館及び県内博物館の中心施設としての県立博物館の整備充実を努めた。

- (4) 県立美術館が開館10周年を迎えたことから、記念式典等を実施した。
- (5) 文化財の調査・研究・保存等の拠点施設として、「文化財センター」（仮称）の整備について、文化財保護審議会において基本構想の検討を行った。

6 保健体育関係

- (1) 東北各県の地域スポーツの振興と体育指導委員の資質の向上を図ることを目的として「平成6年度体育指導委員東北地区研修会」を開催した。
- (2) 広く県民にスポーツ・レクリエーションの場を提供し、活動を一層促進するため「第3回スポーツ・レクリエーション祭」を開催した。
- (3) 「ふくしま国体」の開催を契機に学校教育を活性化させることをねらいとして「ふくしま国体推進学校教育関係者連絡協議会」を開催した。
- (4) 生活環境や生活様式の急激な変化に対応し、人間として調和のとれた心身ともに健全な児童生徒を育成するため、体力・運動能力の向上をはじめ、保健・安全教育、学校給食の充実等により健康教育の推進に努めた。

7 福利厚生関係

- (1) 教職員自らが現職中から退職後までを視野に入れた長期的な生涯生活設計を主体的に確立し、実現していくことを支援する視点から総合的な計画として、平成6年3月に策定された「福島県教職員生涯生活設計推進計画」に基づき、教職員一人ひとりが自らの生涯生活設計を確立し、実現していくことの重要性について理解を深めるため、「教職員生涯生活設計推進事業」の実施を通じ、教職員に対し生涯生活設計に関する普及啓発を行った。

その他、国体に関する事業では、「ふくしま国体」の開催県としてふさわしい成績を収めるために、より一層の競技力向上を図る事業として、「競技力向上推進総合計画」に基づき、指導者の養成・確保等を計画的に行い、競技力の向上と県民スポーツの普及・振興を図るとともに、重点強化宿泊事業等により選手の育成・強化を図ってきたこと。また、その成果があつて、愛知県で開催された「わかしゃち国体」夏季大会及び秋季大会では本県選手団が大健闘し、第49回国民体育大会男女総合成績で第4位に躍進したこと。さらに、平成7年1月には「ふくしま国体」が幕を明け、スケート・アイスホッケー競技会では男女総合7位、スキー競技会では第4位の好成績を上げ、冬季大会時点で第6位につけており、総合優勝に向け好発進したことが明るい話題としてあげられる。関連して競技施設の整備事業としては、「ふくしま国体」における漕艇競技の円滑な運営を図るとともに、漕艇の競技力の向上を目的として整備を進めていた「県営荻野漕艇場」のコースや艇庫等が完成したことがあげられる。